

## 新人紹介



### 養殖研究部 いけざき こうすけ 池崎 公亮

平成 29 年（2017 年）4 月に入庁し、令和 2 年 4 月から養殖研究部に配属となりました池崎 公亮です。

ブリの人工種苗生産や魚病診断に関する業務を担当しています。

水産研究センターでの勤務は初めてで、生き物を扱うことの難しさを感じ、諸先輩方にご指導いただきながら、日々の業務に取り組んでいます。

初めてのことばかりで学ばなければならないことが数多くありますので、皆様からのご助言をいただきながら、熊本県の水産業の発展に貢献できるよう努力していきたいと思いをします。



### 資源研究部 うえはら だいち 上原 大知

平成 30 年（2018 年）4 月に入庁し、水産研究センター資源研究部所属の上原大知です。

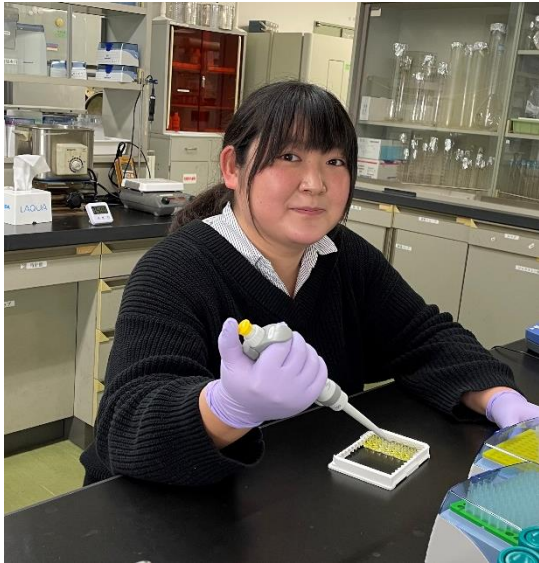
マアジ・サバ類・イワシ類などの資源評価調査、有明海におけるガザミの種苗放流技術開発などの業務を担当しています。

水産学を学ぶために県外の大学に居りましたが、地元の熊本で働きたいと思い、熊本県

の水産技術職を志願し、採用されました。

日々の業務では、漁業者の方や漁協職員の方にお話を伺うことが多く、その度に漁業の現場の厳しさを教えていただいています。また、諸先輩方に優しく、時に厳しくご指導いただきながら、県職員としての振る舞いや科学的なデータの取り扱いを学んでいるところです。これからも熱意を持って業務に励みたいと思いをしますので、どうぞよろしくをお願いします。

## 新人紹介



### 食品科学研究部 かなぼう 金棒 ちあき 千明

平成 31 年（2019 年）4 月に入庁し、食品科学研究部に配属となりました、金棒千明です。

食用海藻の増養殖開発の研究や二枚貝に蓄積される麻痺性貝毒の分析、水産物加工品の試作や細菌検査等の水産物の安全安心に関わる業務を担当しています。配属されて 2 年が経過しようとしていますが、まだまだ学ばなければならないことも多く、先輩方にご指導いただきながら、日々の業務に取り組んで

います。海藻の増養殖開発では、実際に現場に出て漁業者の方と一緒に仕事をすることもあり、漁業者の方からも現場の状況など多くのことを教わります。漁業者の方のお話をよく聞き、知識や技術を高め、熊本県の水産業に少しでも多く貢献できるようになりたいです。また、業務の中には貝毒の分析など、人命に関わるものもあります。これからも緊張感をもって頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 養殖研究部 きよた 清田 じゅんぺい 純平

令和 2 年（2020 年）4 月に入庁し、養殖研究部に配属となりました清田純平です。

クマモト・オイスターの安定生産技術開発試験を担当しております。昨年度までは、一般の企業に勤めており、養殖の研究は未経験なので日々初めてのことばかりですが、諸先輩よりご指導をいただき、業務に取り組んでいます。

現在、クマモト・オイスターの幼生飼育から、中間育成方法の改善、養殖試験と幅広く業務を担当しています。課題や学ばなくてはならないことは多くありますが、熊本県の水産業の発展に役立てられるよう、研究を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 新人紹介



漁業調査船ひのくに こやま 小山 りゅうしろう 龍志朗

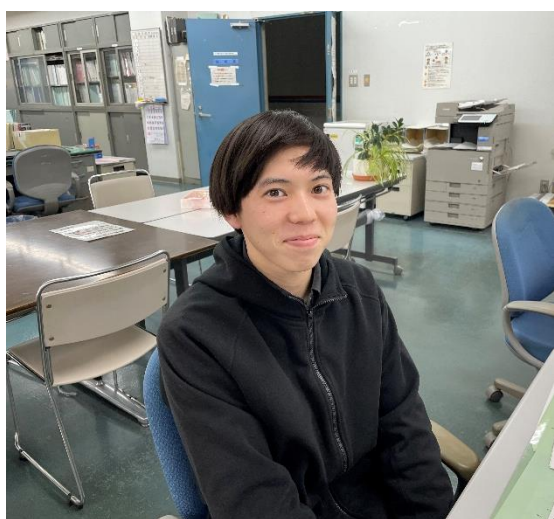
令和2年（2020年）4月に新採職員として漁業調査船ひのくにへ配属となりました小山龍志朗です。

主に航海士として航行中の操船や見張りを行うとともに、各調査地点における調査業務にあたっています。

前職は海上保安官であり、同じく乗船しての業務ではありますが、漁業調査船とは全く異なる業務であるため、最初は不安や戸惑うこともありましたが、諸先輩方にご指導いただきながら日々取り組んでいます。

特に、船上では危険な作業を伴うので、自身の作業に注意しつつ、周囲への報告・連絡を励行し、連携をとりながら事故や怪我がないように努めています。

熊本県の水産業の発展に貢献できるよう、今後も調査業務を遂行していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



技術室 よしどみ 吉富 たすく 匡

令和2年度（2020年度）から新採職員として技術室に配属になりました吉富匡です。技術室は令和2年（2020年）4月に新設され、研究部が行う試験や調査をサポートすることを主な業務とする部署です。私は、資源研究部と浅海干潟研究部を担当しています。具体的には、沿岸域の卵や仔稚魚の発生及び分布状況を把握するための沿岸資源動向調査などのサポート

を行っています。

最初は不安もありましたが、諸先輩方が優しく指導してくださるので不安も無くなり、明るく業務に励んでいます。

高校では海洋生物や海洋環境について学習しましたが、水産研究センターの調査業務の中で、高校で学んでないことが多くあるということを実感しました。

今後、数多くの調査業務の中で「必要なこと」を自分で考え、研究者の方々がスムーズに研究できるようサポートしていきたいと思っています。